

奈良・平安時代の遺跡分布

645年、飛鳥でクーデター(乙巳の変)が起こり、朝廷により中央集権化が推し進められました(大化の改新)。さまざまな制度が改変され、その結果、現在の深谷市の区域は、東側が幡羅郡(はらぐん)の一部、西側が榛沢郡となり、荒川の南側は男衾郡の一部となりました。この時代の遺跡は252カ所で発見されています。

幡羅遺跡(東方)①は、7世紀後半から10世紀前半まで存続した幡羅郡の役所跡と考えられています。現在、その調査が進められているところです。

また、中宿遺跡(岡)②、熊野遺跡(岡)③は、榛沢郡の役所跡と考えられています。現在のところ埼玉県内で確認されている郡役所跡は、この2つの遺跡だけです。



▲復元された倉庫群(中宿遺跡)



百済木遺跡(本田)④からは豪族居宅と考えられる集落が見つかっており、古代男衾郡の中心となる地域であったと推定されています。

西浦北遺跡(榛沢)⑤から出土した陶器は、国の重要文化財に指定されています。



▲重要文化財の陶器(西浦北遺跡)